

なにわ区 浪速区制100周年プレ企画

【第6回】 敷津地域

古くから市民生活を支えてきた 大阪の台所 大阪木津卸売市場

区長 まず、昔々の敷津地域について教えてください。
米田さん 浪速区ができる前は、西成郡木津村という地名だったと聞いています。畑が多くて、確か葱(ねぎ)がたくさん作られていたと思います。
松尾さん 大阪木津卸売市場(以下、木津市場)ができたのは1800年代の初めだそうで古い歴史があります。当時の市場は大国神社の西北部一帯にあって、市場で働く人やその家族が市場のあたりに住んでいたそうです。

大阪木津卸売市場

大正時代には「1都市1市場を原則」とする中央卸売市場制度が導入され、多くの市場が統合・閉鎖されましたが、木津卸売市場は存続運動を展開し、1931(昭和6)年に大阪中央市場の木津配給所として独自の運営を確保しました。その後、1938(昭和13年)に現在の場所に移転し、戦災後も完全民営の卸売市場として再開場を果たします。2010(平成22)年にはリニューアルオープンされ、現在では日本最大級の民間地方卸売市場として運営されています。



区長 そして今の場所に移転したのは1938(昭和13)年のことだと聞いています。でも1945(昭和20)年3月の空襲で焼けてしまうんですね。
下野さん 私は1951(昭和26)年生まれて、生まれてすぐに大阪に来ました。子どもの頃はまだ、焼け野原の跡は草原が広がっていました。でも家の基礎は残っていて、そこで野菜を植えたりしていました。当時はどこもバラックばかりでした。ところが小学校4年生の時にそのバラックがみな消えて、そこに住んでいた友だちもなくなりました。また、高速道路ができることによって、新川の土手の上(今の木津市場の東側あたり)に家を建てて商売をしていた人は立ち退きで、皆敷津地域に引っ越して来られました。

米田さん 今、高速道路から下りてきたところには昔、大八車が並んでおり、木津市場で野菜や果物、魚を仕入れて売りに行く行商の人たちがいました。
下野さん 木津市場は空襲で焼けてしまいましたが、1950(昭和25)年に地元有志によって再開されました。トタン屋根のボロボロの市場でしたけど、とても繁盛して、民間の卸売市場としては日本最大級の規模を誇る市場となり、あたりには市場の関係者がたくさん住んでいました。

区長 そのお子さんたちも通った敷津小学校は今年、150周年を迎えます。
松尾さん 敷津小学校は最初、唯専寺につくられ、木津市場の中に移転し、その後、今の場所に移転しました。

唯専寺(ゆいせんじ)

用命天皇(在位585~587年)の時代、天種子命(あめのみこと)の子孫である迹見赤埴(とみのあかぬ)が四天王寺建立の際に木津浦に草庵を構えたと伝えられています。寺は1606(慶長11)年に現在地に移転し、度重なる火災と再建を経験しました。さらには1945(昭和20)年の空襲で全焼しましたが、本尊は無事でした。寺には木津勤助の墓があり、彼の功績を称える碑も残されています。

地域の力で学校設備を充実

森近さん 私は1951(昭和26)年にここに来て、小学校の2年、3年生の時は大国小学校に通いましたが、児



【参加者】(後列左から)上田 典子さん、小池 喜代蔵さん、松田 篤司さん、松尾 武司さん(前列左から)森近 民子さん、下野喜一さん、米田 弘明さん、幡多区長

童の人数が増えたので、今の国道25号ができたときに私たち北側に住んでいた子どもは敷津小学校へ行くことになりました。

敷津小学校が再開される前は、四角い、ふさのついた制帽の学校が入っていたんです。
米田さん 教育大の附属小学校のことですね。
松尾さん 敷津小学校を再開した時、学校には全然、設備がありませんでした。有志がたくさん寄付をしていろいろと設備もできたんですが、それでも足りないので父兄が今宮戎神社の十日戎の時に笹売りをすることにしました。でもあまり儲からなかったので次は鉛売りをすることになりました。最高の時は、2日間で500万円くらいの売り上げがありました。そのお金で小学校の図書館とか、私たちの時代はカラーテレビとか、そういったものを増やしていきました。
小池さん 小学校には放送部があって、授業が終わって昼休みに入ったら音楽をかけていました。
松尾さん その放送設備も地域からの寄付なんです。
区長 学校に満足な設備がないからPTAで稼ごうというのは、すごいですね。



(昭和11年) 大阪市敷津尋常高等小学校 再開校20周年当時の正門当時の校舎 (出典:創立130周年記念誌 SHIKITSU)

松尾さん その当時、そういった活動を皆さんにも知ってもらいたいと思って話し合い、敷津地域の広報紙「敷津友愛」を1989(平成元)年から作るようになりました。これなら各家庭に行きますのでね。それから毎年発行して今では34号になっています。
区長 敷津地域には国道25号線が通っていたり、地下鉄大国町駅もあります。昔は市電も走っていました。
松尾さん ちょうど大国神社の前に「大黒神社前」という市電の駅があったそうですよ。
区長 「大国町」や「大国神社」の「大国」ではなく、「大黒天」の「大黒」だったんですね。
小池さん 市電は先行によって車両の形が違います。桜川の方に行く市電はランプが上の方についていました。別の路線の市電は下の方にランプがついていました。
松田さん 私は昭和30年代の生まれですが、地下鉄の大国町駅の外で女性が地下鉄の切符を売っていたことをよく覚えています。寒い時は手袋を半分切って、指だけ出して売っていました。交通局の人ではないんで

す。一般の女性が生活のために11枚つづりの回数券をバラして売っていたんです。

かつての浪速名物「だいがく」

区長 今日は、上田さんが面白い写真を持ってきてくださいました。
上田さん これは私が子どもの頃、夏祭りの時に撮ってもらった写真ですが、「台昇(だいがく)太鼓」という変わった形の太鼓が写っています。

だいがく

敷津松之宮夏祭りの「だいがく」は、7月16日・17日に行われる浪速名物でした。江戸中期から存在し、高さ32m、重さ7500kgの巨大なもので、大人100人がかりでかつぎました。各町ごとに異なる飾りがあり、赤毛氈(もうせん)織物の天幕や豪華な刺繍で装飾されていました。



敷津松之宮のだいがく(写真左)とだいがく太鼓(写真右、提供:上田典子さん)

区長 「だいがく」は提灯を吊るした山笠のことで、昔はもっと大きな「だいがく」を神社の夏祭りの時に大勢の人でかついで練り歩いたそうです。戦争でほとんどの「だいがく」が失われてしまったと聞きました。
松尾さん 木津村には6つの「だいがく」があったと聞いています。今は、西成区の生根神社にまだ残っていると聞いています。
上田さん 今まであまり意識していませんでしたが、私がかつぎの頃は「だいがく」のミニチュア版をみんなで引っ張っていたんです。
区長 そういうものが今では写真でしか見られないのは寂しい気がします。

幻の折口信夫記念館

区長 次に、敷津にゆかりのある歴史上の人物についてお尋ねします。
松尾さん 国文学者の折口信夫はこの敷津地域の出身です。その碑が鶴町公園にありまして、公園の中にある老人憩いの家をその記念館にしよう、地元でもだいい運動をしました。そうすると、敷津に記念館がで

きるという話が伝わって、全国から折口信夫の資料が送られてきました。それらを当時、折口の研究をし、連合会長もされていた方と置いてあったんですが、そこが火事になって資料のほとんどが焼けてしまい、残念ながら実現しませんでした。

折口信夫

折口信夫は、国文学者・民俗学者・歌人で、1887(明治20)年に当時の西成郡木津村市場筋で生まれました。国学院大学を卒業後、2年半ほど府立今宮中学校(現今宮高校)の教壇に立った後、国学院大学の教授となり、柳田國男の影響を受けつつ、自分でつかんだ民俗学を国文学に取り入れ新境地を開きました。市制70周年記念として碑が建立され、1983(昭和58)年には「十日戎」の一文を刻んだ文学碑が建てられています。

米田さん 木津勤助は蔵破りをした盗賊ですが、みんなのためにそれをした人で、氷屋をしていた新野さんが中心になって、大国神社の北側に勤助の銅像を作りました。勤助のお墓は唯専寺にあります。

若い世代の横のつながりの強さに期待

区長 当時の皆さんにとっては英雄ですね。いろいろとお話を伺ってきましたが、最後にこれからの敷津地域に期待することを教えてください。
松田さん 敷津地域は難波や天王寺に比較的近い位置にありますので、難波や天王寺にないものができればまた、違ってくるように感じています。なにか特色が出せるよいのですが、そういうものに期待したいです。

下野さん 敷津地域は大阪のド真ん中にあるので、発展はすると思います。店といえばフランチャイズばかりができています。これまで多くの商売人が敷津から出ていきました。まちは発展するけれど、定住してくれる人が減っています。住み良いまちにしていきたいので、まちづくりを若い人たちに譲りたいと思っています。若い人は横のつながりがすごいですからね。そういう横のつながりが強い人たちに今後を期待しています。

敷津地域

●…昔あったもの

敷津東1丁目1~3・5(一部)・6~9、敷津東2~3丁目1・2(一部)・3~11、敷津西1丁目1~11・12(一部)、敷津西2丁目

鶴町公園(折口信夫の碑)、木津勤助の像、浪速図書館、市電「大黒神社前」、敷津東1丁目、敷津西1丁目、敷津西2丁目、敷津東2丁目、敷津小学校、敷津東3丁目、今宮戎駅、大阪木津卸売市場、難波新川(難波入堀川)、唯泉寺、敷津松之宮 大国主神社、木津配給所(移転前の大阪木津卸売市場)

敷津地域 年表

座談会全文はこちら

- 1810(文化7年) 大阪代官藤山十兵衛景義の斡旋により市場開設を官許(大国主神社西北部一帯)
- 1874(明治7年) のちの敷津小学校を唯専寺に創立
- 1881(明治14年) 敷津小学校を木津市場内に移転
- 1911(明治44年) 敷津小学校を現在地に移転
- 1915(大正4年) 市電西道頓堀・天王寺線開通
- 1916(大正5年) 市電難波・木津線開通
- 1938(昭和13年) 地下鉄御堂筋線(難波-天王寺)開通
- 市場を現在地に移転、木津卸売市場と改称
- 1942(昭和17年) 地下鉄四つ橋線(大国町-花園町)開通
- 1945(昭和20年) 爆撃により区域の約93%が消失、区役所を敷津小学校に一時移転
- 終戦、敷津国民学校を大国民学校に統合
- 1950(昭和25年) 民間の大阪木津卸売市場として再開場
- 1953(昭和28年) 敷津小学校が再開校
- 1965(昭和40年) 地下鉄四つ橋線(西梅田-大国町)開通
- 1984(昭和59年) 浪速図書館開館
- 1991(平成3年) 戦災復興土地区画整理事業が完了
- 2010(平成22年) 大阪木津卸売市場リニューアルオープン

問合せ 総務課(企画調整) 6647-9683 6633-8270

浪速区制100周年記念事業

特設ホームページが開設されました!

浪速区制100周年×EXPO記念事業実行委員会の特設ホームページが開設されています。特設ホームページでは、記念事業の紹介や、協賛金の受付など浪速区制100周年に関する様々な情報が掲載されますので、ぜひ一度ご覧ください。

浪速区 100周年 検索

各種SNSでもさまざまな情報を発信しております。

Facebook Instagram

問合せ 総務課(企画調整) 6647-9683 6633-8270

なにわマニア話 vol.6 敷津地域

■折口信夫と木津・敷津を訪れた「まれびと」?

木津・敷津生まれの偉人といえば民俗学者・作家・詩人・歌人の折口信夫(1887~1953)でしょう。その折口が自分のルーツを書いたエッセイ『折口という名字』によると、大坂本願寺と織田信長との石山合戦で頭如上人が根来落ちになり、その時に折口の先祖が海に出る船への降り口を案内したといっています。その功績から「折口」という姓を名乗るようになり、上人から護り袋を拝領したとか。また木津村・願泉寺の門徒衆は馬のように働いたことから「人馬講」と呼ばれ、お西さん(本願寺派)の法会で京に上ると他国の講衆よりも一番上席に据えられたそうです。折口は『大阪談物集』の中でも「木津」と題して「この村ゆ、教如上人 海に出て、村人は海を望み来にけり」という短歌を詠んでいます。折口民俗学は「まれびと」(漂流神)が重要なキーワードですが、木津・敷津を訪れた「上人さま」の物語も、そのイメージの原形なのかも知れません。

案内人 むつさし 陸奥賢さん 観光家/コモンズ/デザイナー/社会実験者

鶴町公園(敷津1丁目7)にある「折口信夫生誕の地碑」